

2022 年 1 月 23 日

2021 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

産後ケア事業における評価質問紙の内容妥当性の検討

Examining the Content Validity of an Evaluation
Questionnaire in Postpartum Care Programs

20MW003

飯田万梨英

要旨

【背景・目的】我が国では、産後ケア事業が法制化されたが、産後ケア事業の利用者が、助産師のケアを評価する評価質問紙についての研究は見当たらない。そのため本研究では、産後ケア事業（ショートステイ型）における利用者が、助産師のケアを評価するための評価質問紙を作成し、内容妥当性を検討することを目的とした。

【方法】評価質問紙を開発する開発研究である。研究対象者は、東京都内で、産後ケア事業（ショートステイ型）を行っている助産師ならびに利用者とした。評価質問紙は、産後ケア事業の現状や、評価方法に関する既存研究を基盤として作成し、6 下位概念から構成された。この評価質問紙の内容妥当性および表面妥当性について、インターネットを用いて調査を行った。なお、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号：21-A058）を得て、実施した。

【結果】研究対象者は助産師 12 名、利用者 10 名であった。まず、評価質問紙の内容妥当性において、概ね基準値の 0.8 を上回っていたが、助産師による評価では、3 項目〈子どもと一緒にいる時間を楽しむことができるようになりましたか〉が 0.75、〈他のお母さんとも悩みを共有したり話すことで、交流のきっかけとなりましたか〉が 0.58、〈助産師によるケアを受けて、乳房マッサージにより母乳分泌を実感しましたか〉が 0.75 であった。利用者による評価では、〈他のお母さんとも悩みを共有したり話すことで、交流のきっかけとなりましたか〉が 0.50 と基準値を下回っていた。表面妥当性について、質問項目の分かりやすさに関しては、質問内容が簡潔であったり、選択式であるといった点が評価されていた。一方で、答えたくないと思う内容に関しては質問を飛ばすことができるようにしたり、利用者のニーズごとに評価質問紙を作成した方がよいとの意見もみられた。回答しづらい質問項目の有無に関しては、「罪悪感」「子どもがかわいい」というメッセージ性のある言葉を使わない方がよい、「乳房マッサージ」や「授乳指導」といった提供するケアを指す用語の修正が必要であるとの意見がみられた。さらに、質問項目の表現の適切性については、単語の表記ゆれがみられていたり、質問項目から否定的なイメージやメッセージ性を感じてしまうといった意見があった。

【結論】産後ケア事業における評価質問紙を作成後、助産師と利用者による内容妥当性、表面妥当性を検討した結果、3 つの概念の修正と、15 項目の質問の修正を行った。その結果、6 概念、22 項目の質問からなる修正版評価質問紙となった。今後、信頼性および構成概念妥当性等の検討が必要である。